



四国がんセンター
婦人科



パクリタキセル+シスプラチン (wTP) 療法を受けられる方へ

_____さま

主治医

受け持ち看護師

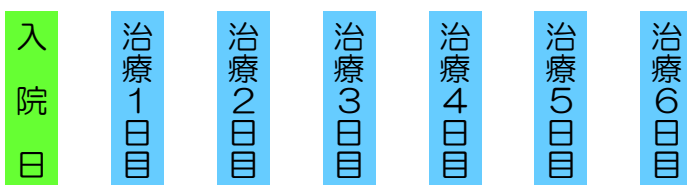
私たち医療スタッフは

- I. 化学療法に対する不安を軽減し、最良の状態で治療が受けられるようにお手伝いします
- II. 治療後の苦痛や副作用を最小限にし、順調に回復され安心して退院を迎えられるようにお手伝いします



wTP療法のスケジュール

1コース（21日間）



パクリタキセル



約1時間の点滴です

シスプラチン



約2時間の点滴です

・この他に、アレルギー予防や副作用予防のための点滴があります

- ・抗がん剤を投与したときに、過敏反応が起こることがあります
過敏症状がでたら、早めに点滴を止めることが大切です
- ・息が苦しい、胸がドキドキする、吐き気など気分が悪いときは
我慢をしないで、すぐに医療スタッフにお知らせください



治療前の歯科受診について

- ◆治療時に起こる口のトラブルを予防し治療が円滑に進むように、治療開始前の
歯科診察を行っています
- ◆治療前の歯科受診では、以下を行います
 - ・レントゲン検査・診察（口腔内の状態を診る）
 - ・歯ブラシだけではとれない細菌の除去
 - ・適切なセルフケア（歯磨き、うがい）指導
- ◆通常1～2回の受診で終わることができます

口の中はとても細菌の多い場所です

治療中や治療後にその細菌が悪影響を及ぼすことがあります

特に、治療後の口内炎・肺炎等を防ぐには治療前から口の中を
きれいにし細菌をできるだけ減らしておくことが有効です



排便について

普段からご自身の便の性状を確認し、入院中に排便調整の目安や方法を医療スタッフと一緒に確認しておきましょう

排便回数が4回以上増えたとき、下記の表の6（泥状便）～7（水様便）の排便が続くとき、周期的に腹痛があるときはすぐに医療スタッフに伝えましょう

3日以上排便がない、いきまないと便が出ない、便は毎日出ているがすっきりしない腹部膨満感などの症状があるときは、排便回数や性状によって緩下剤を使用します

※排便の状況や下痢・便秘の辛さは人によって違います

※排便のコントロールが難しい場合は看護師と解決方法を相談しましょう

便の性状について（ブリストルスケール）

ブリストルスケールは、便のタイプ（硬さ）を7種類に分類した世界共通の尺度です
自分の便のタイプを知り、排便調整の参考にしましょう

1	コロコロ便		硬くてコロコロの 糞糞状の便
2	硬い便		ソーセージ状であるが 硬い便
3	やや硬い便		表面にひび割れのある ソーセージ状の便
4	普通便		表面がなめらかで柔らかい ソーセージ状、あるいは 蛇のようなとぐろを巻く便
5	やや軟らかい便		はっきりとしたしわのある 柔らかい半分固形の便
6	泥状便		境界がほぐれて、ふにゃふにゃの不定形の 小片便 泥状の便
7	水様便		水様で、固形物を含まない 液体状の便

入院中の生活の注意点

- ◆治療中は免疫力低下のため、感染リスクが高くなります
マスクの着用、手洗い・うがいをしましょう
入院中、手洗いの動画をテレビの無料チャンネルで視聴できます
- ◆口の中は清潔にするように心がけましょう
- ◆排泄を促すために水分をしっかりととりましょう
- ◆膀胱に尿が溜まったままの状態は、腎臓や膀胱に負担がかかり炎症を起こすことがあります
尿意を感じたら、我慢をしないでトイレに行きましょう
- ◆排尿時に痛みや残尿感がある場合には看護師にお伝えください
- ◆正しく安全に点滴を投与するために輸液ポンプを使用します
 - ・点滴が入っている部位を曲げたり、ねじったり、また、点滴チューブをひっぱったりしないようにしてください
 - ・歩行時は、点滴台を支えにして歩くと転倒する可能性があります
点滴台は、支えにしないようにしましょう



こんなときは看護師にお知らせください

- ★ 輸液ポンプを使用しているときに機器のアラーム音が鳴ったとき
- ★ 点滴が入っている部位に違和感や痛みを感じたり、腫れてきたとき



- ◆抗がん剤治療開始から治療後2日間ほどは、尿や便などから抗がん剤が排出されます
尿や便に直接触れても健康に直接被害を及ぼすことはありませんが、
できるだけ周りに広げないように以下のことに注意しましょう

- ・尿がこぼれた場合は、トイレトペーパーで
きれいに拭き取りトイレに流しましょう
2度拭き取ると良いでしょう



- ・トイレの後、フタがある場合は、**フタをして水を2回流しましょう**
- ・使用済みのナプキンや尿とりパッドは、以下のようにしましょう
 - ＊ トイレ内に設置しているナイロン袋に入れて口を結びましょう
 - ＊ トイレからナースコールを押して、看護師に渡しましょう
- ・トイレのあとは石けんなどでよく手を洗いましょう
- ・尿や吐いてしまったもので衣類が汚れた場合は、ほかの洗濯物と分けて洗濯しましょう

ダイアリー

このパンフレットには、当院での標準的な治療や日常生活で注意していただきたいポイントなどを記載しています

また、よりよい状態で退院を迎えられるように患者さんご自身の目標と医療スタッフの目標をあげています

治療後の回復は、個人差があり、体の状態によっては予定どおりにすすまないこともあります、その都度対応していきますのでご安心ください

私たち医療スタッフは、これからの入院生活を不安なく送れるように支援させていただきます



入院日～治療開始まで

月 日 ～ 月 日



今日の目標

- ・入院生活と治療内容について理解できる
- ・化学療法中の注意事項について理解できる
- ・心身ともに治療を受けられる状態にある

<時間>

<予定>

11:00

入院

入院後に以下のことを予定しています
・看護師から病院内、病棟内、入院生活の説明
(テレビの病院案内も参考にしてください)

12:00

昼食

- ・検温、血圧測定、身体測定
 - ・血液検査、尿検査、胸部レントゲン、心電図
 - ・入院前の生活状況や身体状況の聞き取り
 - ・初回治療のときは、管理栄養士より病院食や食事の工夫について説明があります
- 2回目以降、味覚障害や食欲不振等がある場合、栄養指導を希望される場合は、お知らせください

治療の流れや注意事項、副作用と対策について説明します
過敏症、点滴部位の痛み・血管痛、吐き気・嘔吐、腎機能障害について

「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照

<お薬>

他の病院で処方されたお薬は、一度お預かりします
医師に確認後、続けるか、中止するかをお伝えします

<食事>

食物アレルギーのある方は医療スタッフにお知らせください
基礎疾患(糖尿病、高血圧等)がある方は、治療食になる場合があります

18:00

夕食

<清潔>

シャワー浴は時間内であればいつでも可能です

21:30

消灯

<睡眠>

眠れないときはお知らせください

薬剤師から治療の流れや副作用の説明があります



医療スタッフの目標

- ・安心して治療が受けられるように支援します





今日の目標

- ・副作用出現時は、医療スタッフに伝えることができる

<時間>

<予定>

6:00

起床
検温、血圧測定



治療開始後は
フタをして水を
2回流しましょう

7:30

朝食

9:30

治療前にトイレに行きましょう

点滴を始めます

※抗がん剤の投与前、開始5分後、終了時には、血圧、脈拍を測定します

- ・点滴が始まったら、尿量を測定しましょう

(用紙は別でお渡しします)

- ・初めてパクリタキセルの治療を受ける場合は、アレルギー症状の早期発見のためにパクリタキセル開始前からパクリタキセル終了まで胸に心電図モニターを装着します

- ・点滴をしている腕は、できるだけ曲げないようにしましょう
移動はゆっくり行いましょう

12:00

昼食

点滴をしている側の手はできるだけ使わないようにしましょう

14:00

検温、血圧測定

点滴が終了後、シャワー浴ができます

体調に合わせて体を拭くこともできます

看護師がお手伝いします

副作用と対策について説明します

便秘ついて

「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照

18:00

夕食

夕食後、オランザピン錠2錠を服用します

19:00

検温

血圧測定

眠気が強く出ることがあるので、薬を飲む前に
トイレに行きましょう

また、夜ふらつくときは看護師を呼びましょう

21:30

消灯

医療スタッフの目標

- ・抗がん剤の点滴中の副作用症状の早期発見に努めます
- ・抗がん剤の血管外漏出予防に努めます



点滴スケジュール

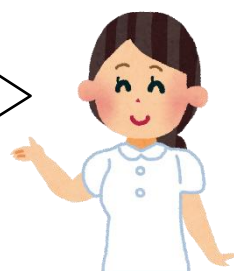
9：30～ 点滴を始めます 吐き気止めの薬を服用します (コップ1杯の水を準備しておいてください)	
1本目	生理食塩水100mlの点滴を行います
2本目	生理食塩水50ml + アレルギー予防の薬が入った点滴を15分で行います
3本目	吐き気止めの点滴を約30分で行います ※3本目の点滴中に一度トイレに行きましょう
4本目	生理食塩水250ml + パクリタキセル（抗がん剤）が入った点滴を約1時間で行います
5本目	尿をたくさん出し、腎機能の悪化を防ぐために、500mlの点滴を約1時間で行います
6本目	生理食塩水500ml + シスプラチン（抗がん剤）が入った点滴を約2時間で行います
7本目	尿をたくさん出し、腎機能の悪化を防ぐために、1000mlの点滴を約2時間で行います
8本目	尿をたくさん出し、腎機能の悪化を防ぐために、500mlの点滴を約1時間で行います 終了後、針を抜きます

※抗がん剤前後の点滴は変更することがあります

※点滴をしている腕はできるだけ伸ばして動かさないようにしましょう

携帯電話や読書するときにも点滴をしている腕は使わないようにしましょう
点滴の管をひっぱったり、体の下に敷き込んだりしないように気をつけましょう
ベッドから起き上がる時は、リモコンを使いましょう

- ・針の入っているところが赤くなった、腫れている、痛みがあるときはすぐにお知らせください
- ・吐き気など気分が悪いときは、我慢をしないでお知らせください
- ・眠気が強いとき、めまいやふらつきがあるときは、動く前にナースコールをしてください





今日の目標

- ・副作用症状出現時は、医療スタッフに伝えることができる

<時間>

<予定>

6:00

起床

検温、血圧測定（治療2日目のみ）

7:30

朝食

★毎週金曜日は体重測定します

朝食後、デカドロ[®]ン1錠、アプレピタント[®]1カプセルを服用します

10:00

検温、血圧測定

副作用と対策について説明します

治療2日目：関節痛・筋肉痛、爪のトラブル、脱毛について

治療3日目：味覚障害・食欲不振、口内炎について

「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照

「がん治療による爪のトラブルについて」パンフレット参照

「がん治療による脱毛に備えて（頭髪編）」パンフレット参照

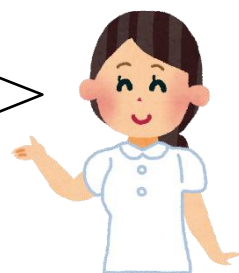
「関節痛・筋肉痛」ページ参照

12:00

昼食

体調に合わせて
シャワー浴をしましょうフタをして水を
2回流しましょう

- ・関節痛、筋肉痛が強いときや、吐き気が強いときは追加で薬を使うことができます
- ・食事は、めん類やフルーツなどに変更もできます



18:00

夕食

夕食後、オランザピン錠2錠を服用します

21:30

消灯

眠気が強く出ることがあるので、薬を飲む前に
トイレに行きましょう
また、夜ふらつくときは看護師を呼びましょう

医療スタッフの目標

- ・副作用症状の早期発見に努めます



治療4日目～6日目 月 日 ～ 月 日



今日の目標

- ・副作用症状出現時は、医療スタッフに伝えることができる

<時間>

<予定>

6:00 起床

7:30 朝食

朝食後、デカドロン1錠を服用します（治療4日目まで）

★次の抗がん剤投与までに血液検査を行います

★毎週金曜日は体重測定します

10:00 検温、血圧測定

体調に合わせて
シャワー浴をしましょう

12:00 昼食

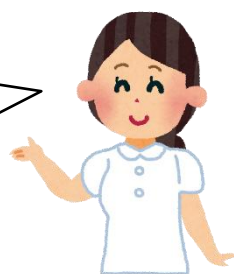
副作用と対策について説明します

治療4日目：骨髄毒性について

治療5日目：神経障害について

「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照

- ・関節痛、筋肉痛が強いときや、吐き気が強いときは追加で薬を使うことができます
- ・食事は、めん類やフルーツなどに変更もできます



18:00 夕食

夕食後、オランザピン錠2錠を服用します（治療4日目まで）

21:30 消灯

眠気が強く出ることがあるので、薬を飲む前に
トイレに行きましょう
また、夜ふらつくときは看護師を呼びましょう

医療スタッフの目標

- ・副作用症状の早期発見に努めます
- ・安心して治療が受けられるように支援します





今日の目標

- ・副作用症状出現時は、医療スタッフに伝えることができる
- ・心身ともに治療を受けられる状態にある
- ・退院後の日常生活の注意点について理解できる

<時間>

<予定>

6:00

起床

7:30

朝食

- ★次の抗がん剤投与までに血液検査を行います
- ★毎週金曜日は体重測定します

10:00

検温、血圧測定

12:00

昼食

体調に合わせて
シャワー浴をしましょう

- ・関節痛、筋肉痛が強いときや、吐き気が強いときは追加で薬を使うことができます
- ・食事は、めん類やフルーツなどに変更もできます



18:00

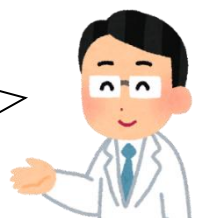
夕食

21:30

消灯

医療スタッフの目標

- ・副作用症状の早期発見に努めます
- ・安心して治療が受けられるように支援します





今日の目標

- ・副作用出現時は、医療スタッフに伝えることができる
- ・退院後の日常生活の注意点について理解できる

<時間>

<予定>

6:00

起床
検温、血圧測定

7:30

朝食

9:30

治療前にトイレに行きましょう
点滴を始めます

※抗がん剤の投与前、開始5分後、終了時には、血圧、脈拍を測定します

- ・点滴が始まったら、尿量を測定しましょう（用紙は別でお渡しします）
- ・点滴をしている腕は、できるだけ曲げないようにしましょう
移動はゆっくり行いましょう

12:00

昼食
点滴をしている側の手はできるだけ使わないようにしましょう

14:00

検温、血圧測定

点滴が終了後、シャワー浴ができます

退院後の日常生活について説明します
次回外来予約票、入院予定票をお渡しします
2階入院受付で、次回の入院手続きをしておきましょう
「退院後の日常生活について」ページ参照



治療開始後は
フタをして水を
2回流しましょう

18:00

夕食
夕食後、**オランザピン錠2錠**を服用します

19:00

検温
血圧測定

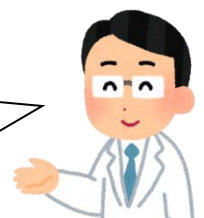
眠気が強く出ることがあるので、薬を飲む前に
トイレに行きましょう
また、夜ふらつくときは看護師を呼びましょう

21:30

消灯

医療スタッフの目標

- ・抗がん剤の点滴中の副作用症状の早期発見に努めます
- ・抗がん剤の血管外漏出予防に努めます



点滴スケジュール

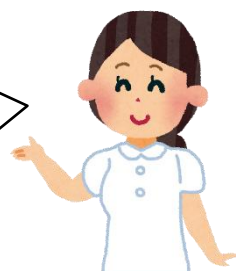
9：30～ 点滴を始めます 吐き気止めの薬を服用します (コップ1杯の水を準備しておいてください)	
1本目	生理食塩水100mlの点滴を行います
2本目	生理食塩水50ml + アレルギー予防の薬が入った点滴を約15分で行います
3本目	吐き気止めの点滴を約30分で行います ※3本目の点滴中に一度トイレに行きましょう
4本目	生理食塩水250ml + パクリタキセル（抗がん剤）が入った点滴を約1時間で行います
5本目	尿をたくさん出し、腎機能の悪化を防ぐために、500mlの点滴を約1時間で行います
6本目	生理食塩水500ml + シスプラチン（抗がん剤）が入った点滴を約2時間で行います
7本目	尿をたくさん出し、腎機能の悪化を防ぐために、1000mlの点滴を約2時間で行います
8本目	尿をたくさん出し、腎機能の悪化を防ぐために、500mlの点滴を約1時間で行います 終了後、針を抜きます

※抗がん剤前後の点滴は変更することがあります

※点滴をしている腕はできるだけ伸ばして動かさないようにしましょう

携帯電話や読書のときにも点滴をしている腕は使わないようにしましょう
点滴の管をひっぱったり、体の下に敷き込んだりしないように気をつけましょう
ベッドから起き上がるときは、リモコンを使いましょう

- ・針の入っているところが赤くなった、腫れている、痛みがあるときはすぐにお知らせください
- ・吐き気など気分が悪いときは、我慢をしないでお知らせください
- ・眠気が強いとき、めまいやふらつきがあるときは、動く前にナースコールをしてください



退院日 月 日



今日の目標

- ・退院後の日常生活の注意点について理解できる
- ・退院できる

<時間>

<予定>

6:00

起床
検温、血液検査

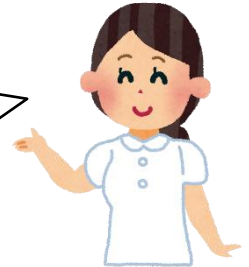
7:30

朝食
朝食後、デカドロン1錠、アプレピタント1カプセルを服用します
次回外来予約票をお渡しします

10:00

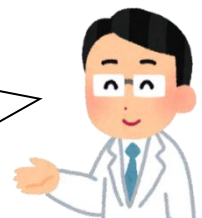
退院
退院前に忘れ物がないようご確認ください
「入院診療費料金連絡票」を病室にお届けしますので、
2階でお支払ください

治療後、時間が経って出現する副作用もあります
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照
副作用症状について再度理解し、次の治療に向けて体調を
整えていきましょう



医療スタッフの目標

- ・退院後の日常生活に不安が残らないように支援します





ウィッグ以外にも
お役立ち製品が色々♪



メイク ネイル用品



ウィッグ 帽子 ヘア用品 ネックカバーなど

治療によって脱毛・肌や爪のトラブルが起こる可能性がある方に、上記展示品の案内や試着を行っています

お住まいの自治体によっては、治療に伴うウィッグに関する助成制度を設けています
詳しくは、本館2階『がん相談支援センター』でご相談ください

※暖だんでの販売は行っておりません

気になる製品については購入方法をお伝えしています

● 関節痛・筋肉痛

1. 定義

筋肉や関節に痛みが生じることをいいます



2. 筋肉痛・関節痛の時期

投与後3～5日後に症状が現れ、症状のほとんどが一時的なもので、数日以内におさまってきます

3. 症状

腰や腕、背中や肩の筋肉に痛みを感じたり、ひざ・ひじの関節などに痛みを感じる場合があります

4. 治療方法

つらいと感じるときは、痛み止めの薬（内服や湿布）を使用して症状の軽減をはかります

5. 予防方法（日常生活の注意点）

- 入浴などで体を温めたり、適度なマッサージで筋肉をほぐし、血行を促進してみましょう
- 同じ姿勢でいると筋肉や骨の萎縮をまねきやすいので、無理のない適度な運動を心がけると良いでしょう

退院後の日常生活について

●活動

規則正しい生活をして、適度な運動をしましょう
疲れたときは十分な休息をとりましょう
白血球が減少している時期は、なるべく人ごみを避け、
人ごみに出るときはマスクを着用して、手洗い・うがいをしましょう



●食事

無理せず食べられるものを探し、食事はゆっくりと時間をかけたり、少量ずつ
可能な範囲で食べるとよいでしょう
食事ごとに吐いてしまうようなときは、1～2食、食事は控えてみましょう
この場合も水分はできるだけとりましょう

●清潔

入浴やシャワー浴をして体を清潔にしておきましょう
発熱時やだるさが強い場合は、入浴を控えタオルなどで拭くようにしましょう
歯磨き・うがいをして、口の中を清潔に保ちましょう
(歯ブラシは、小さく毛の柔らかいものを使用しましょう)

●性生活について（パートナーの方も一緒に読みましょう）

パートナーとの関係について
治療を受けた後は、性生活に様々な変化が見られることがあります
退院後、パートナーとの関係に不安を持つ方も少なくありません
自分の気持ちを伝えたり、治療前の事にこだわらず話し合うことが大切です



●仕事

社会復帰（特に重労働：荷物運びや長時間の立ち仕事、長期の旅行、スポーツ）
については、医師と相談してください

これから先、安心して働き続けるためには
体の状態に合わせた休み方や働き方が必要に
なることもあります
病院では、患者さんの「働きたい！」を
サポートしています
ご相談は、がん相談支援センターへお問い合わせください



ちりょうさ
厚生労働省『治療と仕事の両立支援』キャラクター

●お薬

薬の処方がある方は、医師の指示どおりに服用してください
他の病院の薬を服用する場合は、医師に相談してください

●その他

虫歯、歯肉炎、義歯などの口腔内の不具合はないか確認しましょう
治療開始後、歯科治療が必要なときは、医師に歯科受診について、ご相談ください
インフルエンザ等の予防接種を希望される場合は、医師にご相談ください



- ◆ 38.0℃を超える発熱が続くとき
- ◆ 嘔気が続き、水分・食事がほとんどとれない日が続くとき
- ◆ 体を起こすこともできないほどの強いだるさが続くとき

上記のような症状がある場合やその他ご心配なことがある場合は
がん相談支援センターにご連絡ください

◆ 四国がんセンターの連絡先 ◆

平日 8:30~17:15
四国がんセンター がん相談支援センター
(直通番号) 089-999-1114

平日上記時間外および土・日・祝日
日直/夜間当直師長
(代表番号) 089-999-1111

翌日以降の外来受診日や検査予約日の変更
【平日】 13:00~17:00
四国がんセンター 予約センター
(直通番号) 089-999-1112



パクリタキセル+シスプラチン（wTP）療法を受けられる方へ